



SALVATIONIST

とぎのこえ

2022年標語「わたしたちを救われる神」(詩編40編2~4節)

二〇二二年十一月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)



初冬号

広報版
2022

November-December
No.2843

2022年 救世軍標語

「わたしたちを救われる神」

詩編 40 編 2～4 節

と きの こ え SALVATIONIST

初冬号 広報版

2022 November - December
NO.2843

ブライアン・ペドル大將 ロザリー・ペドル中將 来日の諸集会



〈スケジュール〉

11月17日(木) 来日

11月18日(金) [午前 大阪へ移動]

17時 西日本連隊連合集会

会場) スイスホテル南海大阪 (大阪・難波)

11月19日(土) [午前 東京へ移動]

14時 全国士官会

会場) 日本教育会館一ツ橋ホール (東京・神保町)

17時30分 ゴスペル・オータム・コンサート

ゲスト) 堀井ローレン

会場) 日本教育会館一ツ橋ホール (東京・神保町)

11月20日(日)

10時 連合聖別会

会場) 共立講堂 (東京・神保町)

11月21日(月) 離日

今回の諸集会は、大將夫妻と日本の戦友が間近に会うことを願い計画されています。恵みを期待し、どうぞお集いください。大將夫妻の霊肉が守られますよう、旅程が守られますよう、お祈りください。

もくじ

- メッセージ
父なる神の愛
少佐 眞鍋 和枝 …… 3
- 〔連載〕聖潔の流れに立つ 第23回
ジョン・ウェスレーの聖潔
一心うちに燃えて—
少佐 丸畑 幸夫 …… 4
- 集会報告
コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージック・セミナー
感謝と賛美のコンサート
証言 候補生 吉田 慎也 …… 5
- 集会報告
デザイン・フォー・ライフ 2022
万国指導者会議 …… 6
- 各地のニュース !!
札幌小隊、仙台小隊、西成小隊 …… 6、7
帯広小隊 100周年記念行事 …… 8
江東小隊、渋谷小隊、月島小隊、京橋小隊 …… 9
- YP (青少年部)・ファミリーニュース
東京東海道連隊、杉並小隊、軍国ユース・キャンプ 2022、青少年部北海道キャンペン …… 10、11
- 各地のニュース !!
社会福祉部 …… 12
- 〔連載〕各地の小隊から 第5回
前橋小隊 …… 12
- 〈連載・第17回〉
神の呼びかけ～神の民となるために～
(6) 兵士となることへの呼びかけ
(7) 内なる生活への呼びかけ …… 13
- 救世軍見解表明
社会道德に対する救世軍の立場
第7回「平和の構築」(3)
第8回「難民と庇護希望者」(1) …… 14
- 救世軍公報
社会鍋による支援
東京東海道連隊
災害対策室リポート …… 15
- 女性部
2022 クリスマス・カレンダー
集会、イベント案内
ゴスペル・オータム・コンサート／手仕事マルシェ …… 16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- 『とぎのこえ』購読を申し込みます。
(1年分 1140円。税込、送料別)
- キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名 _____

ご住所 _____

表紙の写真:9月、カナダでおこなわれた万国指導者会議で語る、ブライアン・ペドル大將。(記事6ページ)

父なる神の愛

少佐 眞鍋 和枝

この十年近く、季節の移り変わりを新鮮に受け取ってきました。人の手によって決して成すことのできない変化です。都会から、オホーツク海近くの地に移り住み、目にするもの、耳にするもの、口にするものすべてが新鮮でした。春夏秋冬、目の前で起る移り変わりに感動を覚えるとともに、これは、神様にしかできないこと、いくら現代の科学技術を駆使したとしてもできることではない、と実感しました。

もしれませんね。確かに良い所です。子育てにも最高の地域です。

毎日、大きな窓から外の

緑を眺めながら、朝に晩に聖書を聞き、夫と共に祈りの時をもっています。ある日、分かれ合いをしているときに、賞味期限の話になり、「ところで、私たちの賞味期限って、いつだろうね。もしかすると、期限間近かも。もう切れているかもしれない。」「うーん、そうかも（笑）」なんて、こんな会話がずっとと悪魔が大喜びします。

人は弱い者ですから思考がだんだんと下降線をたどるのです。自分の想像の世界に入り込み、神様不在の自分中心の世界ができあがるのです。その世界にもがき苦しみ、涙を流すことになりません。でも、実際に神様が造られた世界は、そうではありません。いつも私たちに注がれる神様の恵み

は新鮮です。春の若葉と命の芽生えの輝き、夏の喜びにあふれた力強い輝き、秋の優しい充実した存在感のある営み、そして、一瞬にして変わる新雪の輝きは、いつも新鮮な恵みを私たちに届けてくれ、賞味期限などにとらわれることのない、永遠の味わいを教えてくれます。決して古びない、いつも新しい復活の姿をまざまざと見せてくださるのです。コリントの信徒への手紙二 四章一六、一七節に

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわが衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれれます」とあります。

今年の夏、遠軽小隊で「ナイト de ライト」の平野翔一さんによるコンサートが開かれました。その中で、十年前、隣町で、ホワイトアウトによって起きた痛ましい出来事があったこと、それを通して「白慧」という歌がつけられたことが紹介され、歌われました。初めて耳にした私は、大きな衝撃を覚えました。天の父なる神様は、愛と慈しみにあふれたお方です。父親の深く大きな愛を感じることができる歌でした。

突然の暴風雪の中で、娘をかばうように覆いかぶさり自らの命をもって娘を守り抜いた父親。歌詞の一部を紹介します。

「何があっても守り抜く」と約束した時から……
吹き荒れる風と雪に覆い尽くされたとしても
僕は君を抱きしめて温め続けるから 君を救えるのなら僕はそのためにいるから 最後のぬくもりさえも君のための喜び……この雪が解ける季節にはどうか笑顔になって前を向いて歩けるようにただ願っているから……

問もなくこの地域には、

雪が降り、一面白一色に変わります。これからは、雪を見るたびに、この父親の愛を思い出すことを通して、完全な父なる神の愛を思い起こすことでしょうか。父なる神様は、罪の暗闇の中で苦しむ私たちに救い主イエス・キリストを送ってください、私たちの身代わりとして十字架に架け、三日目によりみがえらせてくださいました。コリントの信徒への手紙二 四章一〇節に

「わたしたちは、いつもイエスの死を体にまっています、イエスの命がこの体に現れるために」とあるように、イエス様は

私たちに覆いかぶさって、罪の攻撃から守り抜いてくださったのです。なんとすごい出来事でしょう。父なる神は、私たちを愛してくださるのです。神様は、ずっとずっと、あなたを愛し続けてくださいます。

今年もその愛を覚える季節がやってきます。暗闇の世界に光を灯すために来られたイエス様。ふかふかのベッドではなく飼葉桶の中に寝かされたイエス様。すべての人を救いへと導かれる愛のお方。この大きな愛を受け入れましょう。

(遠軽小隊十宣)



〈連載〉 聖潔の流れに立つ 第二十三回

ジョン・ウエスレーの聖潔 — 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫



(承前) ウエスレーは大学在学中、成績が良く、首席で卒業したのだが、ある時、米国の大衆伝道者に紹介されて、紹介者は、彼の優秀さを高く評価している、と述べた。ところが、大衆伝道者は「それで……」とあまり関心を示さなかったという。それにしても、彼が優れた人材であったことは間違いない。

彼が後に、馬にまたがって英国の各所を伝道して回ったことは有名である。その旅行の行程は二十五万マイルであった。一生の間の説教回数は四万回、弟のチャールズ・ウエスレーは六千五百の賛美歌をつくった、と言われている。

ジョン・ウエスレーの同時代にホイットフィールドがいる。彼はジョン・ウエスレーよりも説教が上手であり、熱があったようである。しかし、ウエスレーは成功したが、ホイットフィールドは、教会形成を組織立てる点では大成しなかったと言われている。その理由は、ウエスレーは多くのものを集め、組織立ててつくり上げることに成功したが、ホイットフィールドはそれほどでもなかったところにある。幾世紀にもわたって残るような教会形成をウエスレーは心がけた。

ホイットフィールドもまたメソジスト運動に励んだのであるが、後にウエスレーとは袂を分かつことになった。その原因は、ウエスレーは、予定説を否定する立

場をとるアルミニウス主義を継承し、ホイットフィールドはカルヴィニズムを継承していたことにある。メソジストの中には、カルヴィニズムとアルミニウス主義の双方が存在したが、カルヴィン系のメソジストは、長老派教会の中に吸収されて、後に砂漠の中の川が消えていくように歴史の中から消えていった。

天満小隊に在任中、私はジョン・ウエスレー著『キリスト者の完全』という本をテキストとして、「聖潔論」の学びを兵士会でおこなった。『キリスト者の完全』はやさしい、と聞いていたので安易な気持ちで取り組んだのであるが、大変むずかしいものであった記憶がある。

また、ウエスレーが感化を受けた著作トマス・ア・ケンピスの『キリストに倣いて』を名古屋小隊に在任中にテキストとして兵士会で学んだ時、私は「これをテキストとして用いるが、霊的な書物であり、人の品性を高く導くものではあるが、しかし注意を要することがある。これは神秘主義の勝った本であることを念頭において学ぶ必要がある。ジョン・ウエスレーは若い時代に神秘主義を好んでこの傾向のものをよく学んでいたが、後年になって、それが真のキリスト教理解に害を及ぼすことを知って神秘主義を避けるようになった」と説明したことがある。

また『厳肅なる召命』というウィリアム・ロー著の神秘主義の色濃い本について、ウエスレーはこのように言っている。

「私はこれを熱心に読んだ。この神秘性はキリスト教に害を及ぼすと知ったが、私の一生を左右する力がその中に秘められていることを知っている。だから手放すことができない」と。

私たちは、それがどのように私たちに影響を及ぼすものであるかを知っていても、その価値を否定できないものが世にはあるということ、心に留めておかなければならない。「他山の石」で玉を磨くということもあり、参考にしたい。

この当時、英国のキリスト教会が荒廃していたと言われ、道徳の混乱は目にあまるものがあった。しかしながら清教徒の精神も全く死んだものではなく、モラヴィア派の感化なども生きていた。

本論

一、カルヴァンとウエスレーの間隙を縫うアルミニウス主義

カルヴァンの著書に、『キリスト教綱要』という有名な大作がある。彼は簡素端正な生活を好み、シンプルライフが著作の中に顕れている。簡素な生活こそ高い思いを生むと考えていたようである。「低処高思」の響きが著書の中から聞こえてくる。

私たち救世軍人はカルヴァンとは異なる立場を採っている。しかし、共通する部分がないわけではない。今ここで、その共通する部分とそうでない部分を記してみようと思う。

これを思想的に明瞭にしてくれたのは、修正カルヴィニズムの立場を採ったアルミニウスである。彼は、極端な予定論を排し、ウエスレーの「聖霊による聖潔」への道を開いた人物だと言える。そういう意味でカルヴァン主義がメソジスト主義を毒したというのは誤解である。カルヴァンとウエスレーの間隙を縫うアルミニウスを覚えたい。ウエスレーの場合、神学の体験的な面を強調したのであって、カルヴァンの言う「神の恩寵」を否定しているのではない。

カルヴァンの特徴の一つとして知られていることは「偶像」を排除することである。また、信仰は聖言(御言葉)によって支えられるのでなければ消え失せる。神を自分の感覚でイメージして造りあげてはならない。私たちは地獄に落ちるのが怖くて信仰しているのではなく、純粹に神を父として愛し、神に背くことを恐れるのである。私たちが充実した生活をしたと思うならば聖書に聞かなければならない、とカルヴァンは強調する。

(続く)

集会 報告

コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージック・セミナー

昨年9月～今年7月 実践セミナー：8月26日(金)、27日(土)

感謝と賛美のコンサート 9月4日(日) 午後1時 YouTube 配信

●コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージック・セミナー (音楽部・青少年部共催)

昨年9月から今年2月に第一弾(全5回)、今年4月から7月に第二弾(全4回)がおこなわれたこのセミナーは、講師に中山有太師(福岡・シャインチャーチ牧師)をお迎えし、月1回のペースでオンラインで開催されました。講師から、賛美奉仕者に必要な霊的備えについて、また実践的な賛美リードの方法について学び、毎回15人前後の参加者が熱心に受講しました。

8月26日(金)、27日(土)には、セミナーの集大成として、杉並小隊を会場に感染防止対策を徹底し、対面で「実践セミナー」が開催されました。26日夜の講演は、これまでの総まとめとなる学び、27日午前はリードクリニックをおこない、参加者の中から3組が実際に賛美リードをし、中山師のアドバイスを受けました。午後は賛美集会をおこない、集った会衆は心から主を賛美し礼拝しました。最後に、救世軍有志のメンバーが中山師とバンドセッションで賛美をし、終了しました。音楽部、青少年部では、今後もワーシップ・ミュージックの学びを継続的におこない、賛美の多様性が救世軍の中に広がり、伝道の機会が増えることを願っています。(参加者27人)

●感謝と賛美のコンサート

コンテンポラリー・ワーシップ・ミュージック・セミナーの講師を務めた中山有太師が音楽ゲストで出演してくださり、「輝く日を仰ぐとき」「よみがえられた」を歌い、主に賛美を献げ始めました。ワーシップセミナーに参加した石川里志曹長(上野)、繁田忍書記(名古屋)

屋)、畠山真紀子(江東)、石川眞楽隊員(江東)が、セミナーの恵みや、コロナ禍やそれぞれの生活の状況にあってどのように神の恵みを体験し、感謝と賛美の思いへと導かれたかを証しました。続いて夏の恵みを振り返るスライド、「恵み Again」の賛美動画が流されました。軍国女性部会長ウエンディ・モーリス大佐が中島美和大尉の通訳で、詩編147編より「賛美を歌う」と題して、神様が成してくださっていることに感謝を献げ、神様は愛に満ち、慈しみと憐れみに満ちた方であることを覚え、世界に広がる信仰者と共に賛美を献げよう、とメッセージをしました。コンサート動画の前後には感謝祭募金のアピール画像が流されました。(視聴回数9月21日現在577回)



音楽ゲスト:中山師(右)と原田恵兄



石川曹長



われを愛す」を歌ったり、

二〇二三年度士官学校
『宣教の勝利者』の学年
士官志願者が与えられる
よう、各小隊の成長のため、祈りましょう

この、霊的な種まきは子どもだけに限らず大人の心にもなされることです。私はいエス・キリストの農夫として、天に召されるまでの間、たくさん種を蒔きたいと願っております。士官学校での学びと訓練が残すところ約半年となりました。これからも、皆様のお祈りによってお支えいただけましたら幸いです。

証言
候補生 吉田慎也
ハレレヤ!
先日の夏期訓練の恵みを証したいと思います。六月二十三日から八月十四日まで、関東東北連隊本部の任命を受け、佐野小隊を拠点に各小隊での聖別会や様々な活動に参加させていただきました。また戦友宅を訪問し、数々のお交わりができたことを心より感謝いたします。佐野小隊を拠点に生活をしていましたので、週二回、佐野保育園の職員朝礼や幼児集会にも出させていただきました。幼児集会では子どもたちが大きな声で「主を愛す」を歌ったり、小さい手を組んで一所懸命にお祈りしたりしていました。そして、連隊長のお話が始めると、皆一斉に目を輝かせ、興味津々で聖書のお話に聞き入っていました。その姿を横で見せていただき感じたことは、連隊長ご夫妻が子どもたちの心にたくさん御言葉の種まきをされているということです。その種は、明日、芽を出すのか、十年後か、三十年後か、五十年後かはわかりません。しかし、時かない種は生えてきませんので、改めて種まきの大切さを感じました。

集会 報告

デザイン・フォー・ライフ2022

9月23日(金)～25日(日) 聖心会裾野マリア修道院黙想の家

士官志願者部・霊的生活成長部共催

デザイン・フォー・ライフが2年ぶりにおこなわれました。推薦された5人の戦友が全国から参加し(帯広小隊・坪川智兵士、杉並小隊・宇賀神努兵士、渋谷小隊・山中実兵士、天満小隊・間島治兵士、間島優子兵士)、講師を伝道事業部長 山谷真少佐、士官学校付 山谷昌子少佐、士官志願者部長 勝笹実香大尉が務めました。今回のテーマは詩編 139 編 7～10 節でした。

「どこに行けば あなたの霊から離れることができよう。
どこに逃れば、御顔を避けることができよう。
天に登ろうとも、あなたはそこにいます。
陰府に身を横たえようとも 見よ、あなたはそこにいます。
曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも あなたはそこにもいます
御手をもってわたしを導き 右の御手をもってわたしをとらえてくださる。」

この詩編から6つの黙想のポイントが立てられ、初日の「開会礼拝」では①あなたの霊=聖霊を慕い求めましょう、②あなたの御顔=神の御顔であるイエスを慕い求めましょう、とメッセージが語られました。初日夜「霊的

な振り返りの時」と二日目夜「賛美と分かち合いの時」では③天に登るとき=人生の最高の時について、④陰府に降るとき=人生の最低の時について、⑤曙の翼を駆るとき=人生の転換期について、それぞれが人生を振り返り、分かち合いをし、共に祈り合う時をもちました。二日目午前「黙想と散策」と最終日の「聖別会」では⑥あなたの御手=父なる神の御手に自分を委ねましょう、とメッセージが語られ、それぞれが自分の人生を神の御手に委ねる祈りを献げました。



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

簿を朗読し、石坂臣司少佐がエフェソ 4:17～24 より「新しい人を身につけ」と題しメッセージをしました。心配していた天候も支えられ、晴れ渡った空の下、恵みの時をもつことができました。(会衆 18人)



札幌小隊

●召天者合同記念会

8月7日(日)午後2時から、みすまい霊園内の札幌小隊納骨堂前にておこなわれました。召天者名簿を朗読し、石坂臣司少佐がエフェソ 4:17～24 より「新しい人を身につけ」と題しメッセージをしました。心配していた天候も支えられ、晴れ渡った空の下、恵みの時をもつことができました。(会衆 18人)

万国指導者会議

9月24日(土)から10月1日(土)まで、カナダ・バンクーバーで「Limitless God (限りのない神)」のテーマのもと、開催されました。2017年以来、ブライアン・ペドル大將の指揮のもとでは初めての万国指導者会議でした。世界の58の軍国、地区(コマンド)から救世軍の指導者たちが集まりました。渡航制限によりカナダに入国できない指導者方は、オンラインで参加しました。ブライアン・ペドル大將は「最高のものはまだ来ていない」と題して基調講演をおこない、続く日程では救世軍のアイデンティティ、セクシュアリティ、ガバナンスなどのテーマについて、発題に基づいてグループディスカッションがおこなわれ、活発な意見交換がなされました。日本からは司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が参加しました。



訪問サンデー
11月6日

電話やメール、手紙を出して、
友人、知人に連絡してみましょう

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

仙台小隊

●仙台小隊・浪江小隊 召天者合同記念聖別会

9月4日(日)におこないました。昨年はオンラインでの開催でしたが、今年は対面で集うことができました。久しぶりに出席されたご家族との再会を喜び、「たけのこバンド」が思い出の賛美を演奏しました。4人の方が、思い出を語ってくださ



り、眞鍋嗣道中尉はヘブライ人への手紙 12章 1～3節より「信仰の歩み」と題してメッセージしました。信仰の先達者の歩みを振り返り、私たちの信仰の歩みが励まされる時となりました。

●准兵士宣言

9月11日(日)の聖別会で針生茜さんが准兵士宣言をしました。幼い頃に大病を患い、大きな試練を乗り越える中で「乗り越えられない試練は与えない」という聖書の御言葉に出合っていたこと、これまでたくさんの人に支えられた分、これからは、神様と共に歩みながら、今度は自分が人を支えていきたいと証しをしました。仙台小隊にとって喜びの時となりました。



西成小隊 感謝の会

9月18日(日)午後2時半より、西成小隊戦友、関係者、かつての小隊士官や西成小隊で士官子女として過ごされた方も集い、おこなわれました。西成小隊は1953年4月に開戦して以来、主の戦いと地域の必要に応じた地道な活動を続けてきましたが、小隊会館が70年近く経過し老朽化のため、取り壊されることとなり、それに先立って「感謝の会」をおこないました。



西日本連隊本部付 本村大輔大尉の司会、栗飯原順大尉の奏楽で始まり、『救世軍歌集』163番「主はわたしを救われた」を力強く賛美した後、本村大尉が開会祈禱を
柴林兵士
この会館での働きを振り返り、今も生かされていることに感謝、また柴林ヴィヴィエン兵士が「この西成小隊で多くの人が他者のために奉仕する喜びを知ったこと」を証しました。その後、『救世軍歌集』24番「東からも西からも」を賛美し、西日本連隊長 鈴木智博大尉が「神の宮として」と題して、コリントの信徒への手紙一3章 16、17節から、「建物は取り壊されるが、私たち自身が神様の住まわれる神の宮である」と御言葉を取り次ぎました。最後に恵の座が開かれました。連隊女性部書記 鈴木真理子大尉が



小水曾兵士



柴林兵士



感謝の祈りを閉会祈禱として献げました。「感謝の会」の後、有志により、感謝の思いをもって、バンド演奏がなされました。(参加者27人)

NEWS!!
NEWS!!帯広小隊
100周年記念行事

各地のニュース!!

9月17日(土)、18日(日)に開催しました。司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出席、通訳の中島美和大尉と、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)・アンサンブルが同行しました。

17日(土) 午前—長年、救世軍の働きを支えてくださっている方々に感謝の意を表すために、司令官夫妻が地域の企業を表敬訪問しました。石坂和男前会計夫妻が創業した株式会社梅屋、十勝毎日新聞社、毎年社会鍋を立てさせていただいている藤丸百貨店を訪れ、司令官からそれぞれの社長に感謝状が贈呈されました。十勝毎日新聞社は、初代社長林豊洲氏が小隊開戦のために尽力されたことが記録に残っており、今日に至るまで長年の支援に感謝し、さらなるパートナーシップの構築を約束しました。時間が限られていたため、その他15社については、小隊士官が感謝祭募金にあわせて感謝状をお届けする予定です。

午後1時—藤丸百貨店ふれあい広場にて、100周年記念集会の広告を兼ねた「野外ミニコンサート」を開催し、JSBアンサンブルが温かい音色を届けました。(聴衆65人)

午後2時—帯広小隊会館を会場に「帯広小隊100周年記念感謝と賛美のコンサート」を開催しました。帯広小隊士官樋口潔中尉が司会。JSBアンサンブルの奏楽で一同で賛美し、帯広小隊士官樋口光世中尉が開会祈禱を献げました。司令官の挨拶があり、帯広小隊タンバリン隊が「喜び満ちあふるる救世軍」の曲に合わせて操練をしました。クイズタイムでは、子どもから大人までクイズを楽しみながら、小隊の100年の歴史を振り返りました。JSBアンサンブルの演奏に続き、ママゴスペルが「主を仰ぎ見て」、「君

は愛されるため生まれた」の2曲を賛美しました。ウェンディ・モーリス大佐は、「恵みと祝福」(詩編103:8~12)と題してショートメッセージをし、この小隊の100年の歩みが神様によって始められ、守られ、導かれてきたことを確認し、一同、神様に感謝と賛美を献げる時となりました。

コンサート後は、救世軍のフェアトレードブランド、「^{アザース}others」の商品の抽選会があり、その後、小隊前に初代キャンティーンカーが登場して、コーヒーサービスの時がもたれ、地元のドーナツ店のドーナツと温かい飲み物が提供されました。会館では、歴代の小隊士官からのお祝いメッセージ動画が流され、喜びが増し加わりました。(会衆53人、YouTube視聴回数9月21日現在235回)

18日(日) 午前10時—とちかちプラザ大集会室を会場に、司令官指揮で「帯広小隊100周年記念集会」が開催されました。JSBアンサンブルと樋口光世中尉が奏でるピアノの前奏によって霊的な雰囲気の中、樋口潔中尉の司会で開会し、『救世軍歌集』100番「主のみ救い」を会衆一同で高らかに賛美しました。北海道連隊長石坂臣少佐が開会祈禱を献げ、司令官が挨拶。スライドショーで小隊の100年の歩みを振り返り、坪川智兵士が今の時代にあっても生きて力強く働かれる神様の御業を証しました。JSBアンサンブルによる演奏の後、今年のテーマコーラスを一同で賛美。嶋中恵子兵士が聖書朗読をし、司令官は「主の真実(まこと)に感謝する」(フィリピ3:12~14)と題して説教をしました。神様のこれまでの100年の守りと導きに感謝しつつ、帯広小隊を興された同じ神様が今も生きて働いておられることを確認し、聖霊の導きに従って前進しようとして奨励し、一同思いを新たにしました。聖霊に満ちた祈りの時がもたれ、JSBアンサンブルによる演奏「主があなたを照らし」をもって閉会しました。(会衆50人、YouTube視聴回数9月21日現在113回)

午後0時15分—ドトールコーヒーとちかちプラザ店内のステージにて、JSBアンサンブルによる「ランチタイムミニコンサート」を開催。ランチやお茶を楽しむ人々にブラスの音色をお届けし、同時に救世軍の働きの良いアピールの時となりました。(聴衆35人)

午後2時30分—帯広市つつじヶ丘霊園小隊墓地にて、司令官指揮で「墓前礼拝」。JSBアンサンブルの奏楽で『救世軍歌集』255番「いつくしみ深き」を賛美し、元帯広小隊長宮本正勝少佐が開会祈禱を献げました。墓地委員長横山潔身兵士が召天者名簿を読み上げた後、司令官は「悲しみはキリストにある希望のうちに」(テサロニケー4:13

~18)と題して説教をしました。小隊の歴史を守り紡いでこられた先人方を偲び、復活の希望を新たにしました。台風の影響で心配されていた天気も何とか守られ、墓地を出発した瞬間に雨が降り始めるという、一同、神様の御業を崇める時となりました。(会衆39人、YouTube視聴回数9月21日現在29回)



江東小隊 ●敬老の日ミニストーリー

ある日、私は父と話して彼の白髪しらぎについて冗談を言いました。すると父は、「その白髪は知恵を表している」と答えました。私はその言葉に心を打たれ、思いめぐらす中で、箴言 20:29 を思い起こしました。「力は若者の栄光。白髪は老人の尊厳。」

私は地域の高齢者に心を向けるのはすばらしい考えだと思い、江東小隊では初めて、「敬老の日」を前に、コミュニティ向けの活動をおこないました。9月16日(金)、小隊の玄関前で毛布、タオル、お菓子、紅茶、コーヒー、『と



きのこえ』、『はあもに』などを配り、人生の先輩たちと時間を過ごし、笑顔で言葉を交わしました。ある方は「自分は仏教徒だ」と言いましたが、私たちは「それでいいのです、日曜日の礼拝にはいつでも歓迎いたします。私たちはだれでも日曜日に来てくださることを歓迎します」と言いました。その方はこの活動を喜んでいました。また、通りかかったある女性の方は、足を止めて私たちと話をしてくださり、誰でも訪ねてくる人を助けようという救世軍を喜んでおられました。この活動は「心は神に手は人に」の実践あいきさつであり、ある兵士はとても感動し、地域の人々に会い、挨拶することを喜んでいました。

マルコ 12:31 には「隣人を自分のように愛しなさい」とあります。これからも、このような地域への活動を通して、キリストが私たちの中に生きておられること、イエス・キリストがすべての人のためにこの地上に来られたことをお伝えしていきます。キリストは仏教徒のため、イスラム教徒のため、ヒンズー教徒のため、そしてクリスチャンのために来られました。イエス様は日本ですばらしいことをしておられます！

(セジャール・マカチェン大尉報)

渋谷小隊 ●下士官任命

9月11日(日)、人事・教育部長添田美和少佐出陣の聖別会で、下士官任命式がおこなわれ、大橋 環兵士が小隊女性部副書記の任命を受けました。



月島小隊 ●召天者合同記念聖別会

9月18日(日)、西宮幸治少佐出陣でおこないました。イエスを主と信じる信仰を確かにし、信仰を全うまっとうしましょう、と奨励を受ける時でした。(会衆 21人)



京橋小隊 ●夏期修養会

8月28日(日)～30日(火)に「ヴィラ本栖」にておこないました。日曜午前の聖別会を終えた後に出発。湖畔での早天祈祷会や、美しい自然の中でリフレッシュする時をもち、「ウェルカムナイト」、「証言の夕べ」では参加者全員が証言をし、恵みを分かち合いました。最終日は「賛美と感謝の会」で小隊士官平本宣広少佐がメッセージしました。祝福された修養会を感謝いたします。(19人)



●「しもべあの大冒険」番組終了のお知らせ 2021年4月から配信してきた日本 CGTV との共同子ども番組「しもべあの大冒険」は、今年12月(クリスマスごろ)に終了します。コロナ禍の中で始まった番組ですが、現在は救世軍をはじめ、多くの教会で日曜学校が再開したことや、番組の再編成が理由です。動画はアーカイブ保存され、今後とも視聴いただけます。皆様のお祈りをありがとうございました。

YP (青少年部)・ファミリーニュース

東京東海道連隊

●キッズ・キャンプ2022

7月26日(火)、27日(水)、「奥多摩福音の家」でおこなわれました。新型コロナウイルスの影響で、連隊としては3年ぶりのキッズ・キャンプ開催でした。前夜からの大雨が降りやまず、プログラムへの影響が心配されるなか、子どもたちは会場に向かうそれぞれの車中で、一生懸命に神様に祈りました。すると、会場に着く頃には、天気はすっかり晴れて地面は乾き、予定されていたプログラムはすべておこなうことができました。キャンプのテーマは「見よ、それは極めて良かった」(創世1:31)で、私たちの祈りを聞いて、良い事をしてくださる神様をキャンプ前に経験し、みんな開会集会から大きな声で賛美をしました。杉並小隊士官補佐 朝澤まりこ大尉を通して、創世記から「極めて良かった」と御言葉を聴いて、私たちも神様から本当に良く創造されたことを信じることができました。

集会後は外に出て、大人の参加者も童心に帰って、一緒に水遊びやスイカ割り、夕食後はキャンプファイヤーをおこない、自然に囲まれた中で、神様のすばらしさを感じることができました。

翌日はラジオ体操と朝食の後、チャペルで賛美とゲームの楽しい時をもちました。2日間のしめくりとして閉会集会

をおこない、連隊長 石川和男少佐は、キャンプのテーマ聖句(創世1:31)より、自分と違って見える人たちのことも、神様は極めて良いとご覧になられているのだから、互いに愛し助け合いましょう、と話しました。集会後は昼食の時間まで、再び外の自然の中で遊ぶことができ、お友達との別れを惜しみ、来年のキャンプでの再会を約束して散会しました。(参加者36人)



午後3時から、「しもべあの大冒険 in 帯広」。帯広小隊士官樋口潔中尉、光世中尉が賛美を導き、祈りの後、ペーくんとまりちゃんが登場しました。まりちゃんがゲームを導き、会場の子どもたちも盛り上がった後、創世記1:3より「光について」のお話をしました。北海道はすでに新学期が始まっており、久しぶりの学校や幼稚園・保育園に、緊張や不安を感じている子どもたちの心に聖書の言葉が届けられました。日ごろ「しもべあの大冒険」を観ている子どもたちと、うれしい夏の思い出となる時をもちました。(参加者大人9人、子ども16人)

●杉並小隊 献児式

9月11日(日)、司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐出陣の聖別会席上、朝澤和生くんの献児式が司令官の司式でおこなわれました。司令官はマルコによる福音書10章13節から、「子どもたちは恐れることなくイエスのそばに行く。わたしたちもそうでありたい」と奨励し、和生くんと家族のために祈りました。その後、小隊士官山谷昌子少佐と朝澤大尉夫妻が献児式の歌を歌って、祝福の時を締めくくりました。



軍国ユース・キャンプ2022

テーマ「私たちを救われる神」詩編40編2～4節
8月15日(月)～17日(水) 会場：YMCA 東山荘

3年ぶりに開催できたユース・キャンプは、賛美に始まり、オリエンテーションに続く「アイスブレイク」では、みんなで体を動かしながら笑顔でゲームを楽しみました。

「ウェルカムナイト」では司令官スティーブン・モーリス大佐が救いについて、「私たちのアイデンティティーはキリストの中に見いだされる。神は本当に信頼できる方であり、みんなに出会ってほしい。また信仰はチームで助け合っていくもの」とメッセージ。小グループでの分かち合いと祈りが続きました。

2日目午前は「分かち合いの時」。救いについてぶっつけトークとして、士官へのインタビューでは個人的な真実な救いの経験や歩んできた思いが話され、ウェンディ・モーリス大佐は罪の赦しと新しい生き方について、「希望、天国への冒険、試練の目的、救いの中で知恵と導きを受け取る」と4つのポイントについてメッセージ。それを受けてゆっくりとグループごとの分かち合いがもたれました。午後は「運動会」を4チーム対抗でおこない、子どもから大人までチームメンバーとして協力し合って、本気で楽しみました。その後も仲間とスポーツや賛美、語り合い、と思いいに過ごしました。夜の「キャンプファイヤー」では、中島美和大尉が「『恐れなくてよい』と手を差し伸べてくださる主を真剣に求めてほしい。自分のこととして心を尽くして主を探し求めてほしい」とメッセージ。

雲の切れ間から輝く星を見上げ、暗闇の中に輝く炎に照らされ、主を賛美し続ける青年たちの姿がありました。

3日目「派遣礼拝」では、賛美とグループでの分かち合いをしました。3日間を通してグループの同じメンバーで語り、祈り合い、交流を深めました。続いて司令官は「クリスチャンとしてお互いに助け合い、励まし合うグループは大切である。いろいろな声や意見が周りにあるが、どの声に聴くべきか。神が導くその声に聴き、本当の私たちの姿を知り、霊的に成長していけるように。また次の人に福音を伝えていく役割がみんなに与えられている」と語り、静かな祈りの時がもたれました。対面でのキャンプを無事におこなうことができ、感謝と喜びの内に次回に期待して、青年たちはそれぞれの場所へ派遣されていきました。(参加者45人)



青少年部北海道キャンペーン

8月19日(金)～21日(日) 遠軽小隊、帯広小隊にておこないました。

●遠軽小隊

8月19日(金)午後7時30分、小隊会館にて、札幌出身のクリスチャンロックグループ「ナイトdeライト」のボーカル平野翔一さんの「アコースティックLive」(コンサート)を開催しました。平野さんがMCをはさんで5曲を熱唱。スクリーンに歌詞が映し出され、歌声と共に歌詞が心を打ちました。青少年部長朝澤義人大尉がショートメッセージ「神の家に帰ることの幸せ」を語りました。(参加者17人)

8月20日(土)午前10時30分から45分間、北光学園(児童養護施設)での集会。北光学園では毎月一回救世軍が集会をおこなっています。今回は平野翔一さんと「しもべあの大冒険」のペーくんとまりちゃんが特別ゲストとして登場し、ペーくんとまりちゃんの対話で



遠軽小隊でのコンサート

「光あれ!」とショートメッセージをしました。続いて平野さんのリードで歌と証言がありました。(参加者70人)

午後3時からは会場を小隊に移し、「母と子のしもべあの大冒険コンサート」を開催しました。午前と同様のプログラムで、参加した方々が楽しんでおられました。(参加者大人11人、子ども8人)

●帯広小隊

8月21日(日)午前、帯広小隊聖別会で青少年部長がマルコ4:35～41より「まだ信じないのか」と題しメッセージを取り次ぎました。戦友方は久しぶりの前小隊士官朝澤大尉夫妻との再会を喜び、恵みの時となりました。(会衆21人)



北光学園で

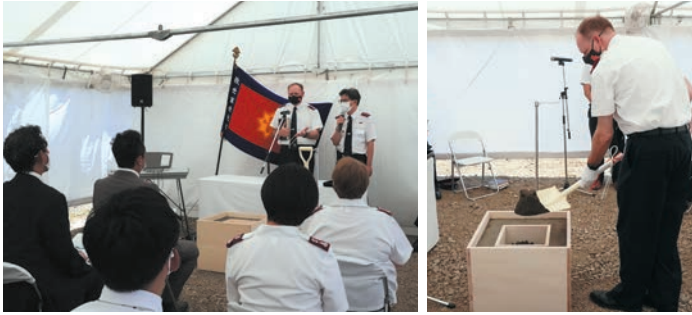
NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

社会福祉部

●世光寮第四グループ
ホーム起工式

8月10日(水)、司令官スティーブン・モーリス大佐の司式でおこなわれました。司令官がマタイ7:24～27より「揺るがない土台はすべてのことに耐える」と題し式辞及びメッセージをした後、土台に聖書を納め、鍬入れ式をポラテック株式会社 木造建築事業部 埼玉西部事業支店東京西工事課課長 橋本兼一様、社



会福祉部長、世光寮施設長 石川一由紀少佐、司令官がおこないました。軍国女性部書記西村和江少佐が祈祷を献げました。猛暑の中、世光寮職員も参加し、子どもたちの新たな生活の場のため工事が安全に進められるよう祈る時でした。

●全国社会福祉部・医療部施設長及び士官会議

9月6日(火)～7日(水)、杉並小隊総合センター別館に東京地区の参加者が集い、オンラインで各地をつなぎ、「新しいビジョンと器」(マタイ9:16、17)のテーマで開催しました。開会集会に続き、児童・保育・高齢・支援の各部会ごとに分科会を2回おこないました。特別講演では「働く環境を考える(産業医の立場から)」と題し、金谷ファミリークリニック院長の金谷翼医師から、職員が長く、健康を維持しながら働くための示唆に富むお話を伺いました。閉会集会は司令官がメッセージをし、軍国女性部長ウエンディ・モーリス大佐は、自分自身の人生経験と救世軍の社会事業の密接な関わりの中から奨励しました。(施設長、士官32人、講師及びスタッフ10人、計42人)

連載

各地の小隊から
第5回 前橋小隊

小隊士官 田口哲也少佐

前橋小隊の前身は、1899(明治32)年、伊勢崎で救世軍に導かれた森川抱次氏の家庭集会でした。彼は前橋で事業をおこなう傍ら、家族や親類縁者を集め、集会を催し、小隊の原型が形成されました。

1901(明治34)年4月、日本で救世軍の働きが始まって6年目、前橋市弁天通(広瀬川の端)に小隊を置き、同6月3日、関東で5番目の小隊として、山室軍平中校出陣で開戦式がおこなわれ、上野大隊長水口豊次郎少校が挨拶、山室中校が説教しました。最初の小隊長は井上太一郎大尉夫妻。求道者は増し加えられ、1905年4月に横山町に移転しました。1907年、創立者ウイリアム・ブース大將が来日時、東京以外の地で最初に訪れたのは上州・前橋でした。4月25日、山室軍平少佐が通訳を務めた前橋駅前での集会では、江原県会議長、稲葉市長、徳江市議会議長が出席する中、群馬県、前橋市をあげて歓迎されました。駅前広場には数千の群衆が集まり、通りを埋め尽くしました。1911年8月には、前橋市千代田町の立町通沿い(現在の場所)に敷地を購入し、移転しました。

太平洋戦争中、イギリス発祥の救世軍は敵国の団体とみなされ、他教会と合同の「日本基督教団」の第十一部教会となり名称を「前橋立川教会」に変更させられ、戦災によって建物を焼失しました。終戦後の1946(昭和21)年9月22日、救世軍が再建され、前橋小隊は1950年8月19日に会館を落成しました。

創業の時代を支えた森川抱次氏はその後、救世軍では特務曹長として、また公には県会議長となり群馬県社会福祉にも貢献し、前橋基督教団前橋キリスト教会の信徒・宮内文作翁創設の「前橋養老院(現・社会福祉法人恵

風会前橋老人ホーム)」や、「上毛孤児院(現・社会福祉法人上毛愛隣社)」の運営にも深く関わりました。また横須賀海兵団水兵時代に救世軍兵士となった田辺熊蔵氏(前橋小隊初代曹長)は、森川氏より前橋養老院を託され、初代院長に就任しました。

「共愛女学校(現・共愛学園。1998年小屋原町に移転)」では、ブース大將をはじめ、救世軍士官がたびたび訪問してメッセージをし、最近ではウエリントン・シタデル・バンドによるスクールコンサートが催されるなどの活動を通じて関わりが深く、学生をはじめ多くの方々の前橋小隊に導かれました。

1988年3月31日に、全国大会のため来日中のエヴァ・バローズ大將を前橋に迎え、現在の会館の献堂式がおこなわれました。小隊前の立川町通りのアーケードには、歓迎を伝える横断幕と共に救世軍の小旗が数多く掲げられ、救世軍の音楽が流れ、町をあげての歓迎の中の献堂式でした。

現在、前橋市内で「教会通り」と呼ばれる諸教派の教会が密集する一部に、前橋小隊もあります。創業時のクリスチャン、救世軍人の信仰の歴史に育まれた環境を引き継ぐ下士官、戦友が、先人の精神を学びつつ、忠実な信仰を守っております。(写真は今年4月17日イースター召天者合同記念会。)



〈連載・第17回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(6) 兵士となることへの呼びかけ

(承前) それですから、兵士にとって弟子になるということには、聖霊の促しに応答し、その導きに従うと約束することが含まれます。礼拝や祈り、奉仕、また聖書の学びを通し、恵みのうちに成長することを目的とすることを含みます。生活においては世俗の基準に価値を求めず、神の国に価値を置くことを約束するのです。あらゆる面に関するクリスチャンとしての高潔さ、すべての関係におけるクリスチャンとしての理想、そして結婚生活及び家庭生活における神聖さといったすべてが、これらの約束の中心です。兵士がもつシェパードシップのすべては、身体的にも心情的にも霊的にも、神に対する義務であると認識すべきです。

もしイエス・キリストの福音を他の人と分かち合うことを望まないとしたら、それは弟子としてはおかしな話です。弟子は、人々を主のもとに連れ来たいと願い、貧しい人や恵まれない人々を助けたいと熱心に願うものです。救世軍兵士は、アルコール類やたばこ、医療目的以外の薬の常用、ギャンブル、ポルノ、オカルトその他、肉体や精神を奴隷化するすべてのものを避けることを、霊的な規則として受け入れます。小隊への献身、救世軍の原則と慣行への忠誠は、それらが世間に認められているときも迫害されているときも、明確に宣言されるものです。生半可な気持ちでは兵士にはなれません。

今日、救世軍の同友者になることを希望する人が増えています。そのうちの多くは兵士にはなりません、弟子として行動します。彼らが小隊生活、救世軍生活、教会生活に参加することは歓迎され、価値が認められています。また同友者の中には弟子としての準備ができていない人や、救世軍の交わりや伝道に関わりたくない人もいます。

「神の民」となるようにとの救世軍人への呼びかけは、救世軍の独自性と救世軍が置かれている教会生活の普遍性の両方に関わります。救世軍の創立者は、教会生活の本来の役割を明確にするために、神が救世軍の働きを起こされたと確信していました。それは140年^{*}以上前のことですが、今も世界中に影響を及ぼし続けています。

兵士になることは、この働きを起こされた神への献身を裏づけるものであり、その献身は他者への奉仕を通して最大限に表されます。兵士がいなければ救世軍は絶えるでしょう。救世軍の存在は悪と戦う兵士にかかっています。神の導きの手が自分の上にあると自覚している兵士が必要なのです。命をかけて大胆に神に信頼する兵士が必要です。主に従順で、主に「はい」と言うことができる兵士が必要です。兵士がいなくては、だれも救世軍のを知ることができないではありませんか。

質問

1. 人生を変えるキリストとの出会いを公に証しすることは、どれほど重要でしょうか。
2. 回心をしたときに何が起きますか。
3. 個人が弟子となる際にどのような犠牲が伴いますか。
4. 弟子となることへの継続的な招きに対して従順であり続けるために、どのようにしたらよいですか。

参考になる聖書箇所

マタイ 10・37～39、マルコ 8・34～37、ヨハネ 3・3～8、コリント一 1・10～25 及び 12・13、コリント二 6・1～10、エフェソ 4・4～6

(7) 内なる生活への呼びかけ

わたしたちは世界中の救世軍人に呼びかけます。信仰深く訓練された継続的な祈りを新たにし、絶えず御言葉を学び、熱心に御心を尋ね求め、自己を無にして信頼と感謝の霊に満ちた質素な生活とともに、新しいミレニアム^{*}を迎えることを。

絶え間なく内なる生活を耕すことは、わたしたちの信仰生活及び戦いの活力に欠かせません。内なる生活の訓練は、独りになること、祈り、黙想、学び、そして克己を含みます。独りになり神との時間をもつことにより、わたしたちは沈黙の大切さを発見し、神に聴くことを学び、本当の自分自身を知ることができるでしょう。祈ることにより、わたしたちは礼拝と懺悔、嘆願ととりなしに包まれた独特な対話を経験するでしょう。黙想により、わたしたちは神の変化する言葉を聞くでしょう。学びにより、わたしたちはキリストに似た者へと心を整えられ、御言葉によってわたしたちの考えは形づくられていくでしょう。克己により、わたしたちは神に焦点を当て、霊的な知覚を成長させるでしょう。いかに欲望がわたしたちを支配しているかが明らかになり、貧しく乏しい生活をする人々に対して、理解し行動する経験へと近づくようになるでしょう。(続く)

^{*}原著発行が1999年であることによる表現

〔ご案内〕

新兵士軍律および副読本 まもなく刊行

万国本営から昨年7月に発行された2冊の翻訳編集が進み、まもなく刊行いたします。新兵士軍律『召されて兵士となる』は、「兵士の誓約」の各項目を解説するかたちで構成されています。また、副読本『日々に 使命への召しに答えて』は、「大将による使命への召し」に基づいたものです。この2冊はすべての兵士に無償配布されます。

現代に生きる救世軍兵士が主に従い、活動的に歩むための手引きです。どうぞご期待ください。



救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第7回「平和の構築」(3)

(承前) 実際的な対応

- *救世軍は平和構築の働きに参加します。そこで必要なのは、そのような働きに知恵と技術をもって携わるにはどうしたらよいかを学ぶことです。救世軍は、上に述べた背景や状況をもとに、「正義と平和構築」に努めます。
- *救世軍は、そのメンバーたちが平和を求め、個人として、共同体として、国家として、また、世界的なレベルで、平和の追求に励むように備えをします。
- *救世軍は平和構築のためのグループを奨励します。
- *救世軍は、難しい問題について話し合い考える際に、信仰に基づく共同の取り組み (FBF: Faith-Based Facilitation) の枠組みを活用することを勧めます。
- *救世軍は、根気よく社会正義を擁護します。
- *救世軍は、国際的に発展していくことが世界的な平和構築に役立つと考えます。紛争を防止し、平和を進めるため、発展プログラムを支援します。
- *救世軍は共同体の働きにおいて、紛争に配慮し、紛争の起きそうな地域で新しいプログラムを始める前には、紛争に関する分析を十分にするように勧めます。
- *救世軍は、世界的な武器売買を縮小し、人権を高め、暴力を伴わずに紛争を解決する方法を求めつつ、拷問を排除し、無差別で大量な破壊の武器を排除するための国際的な働きを支援します。
- *救世軍は、平和の確立を防衛と政治活動と国際関係のゴールとするように、と政府に呼びかけます。
- *救世軍は、徴兵制度で兵役についている救世軍人たちと、志願兵として兵役につく救世軍人たちを支援します。
- *救世軍は、兵役に対して良心的参戦拒否をする人の権利を支持します。
- *救世軍は、軍隊でのチャプレンの働きを支援します。
- *救世軍は、戦争の被害を受けた人々に人道主義的、霊的サポートを行います。
- *救世軍は、いかなる形の宗教上の迫害に対しても反対します。
- *救世軍は、平和構築のために、教会一致の対話、異教徒との対話を支持します。

(2016年7月大将によって承認)

第8回「^{ひこ}難民と庇護希望者」(1)

難民と庇護希望者についての見解表明

救世軍は、何百万人もの難民や庇護希望者の人々の窮乏に対して深く心を寄せています。迫害を恐れる十分な根拠があるゆえに、人々は家から逃げ、国から逃げている

のです。これらの人々の多くは深い悲しみとトラウマを経験しており、そのことは彼らの健康と福利に、長期にわたる潜在的悪影響を与えます。

救世軍は、すべての人が生命、自由、安全の権利をもっているため、庇護を求めることは基本的な人権であると認めます。救世軍は、平和、寛容、人間の命と尊厳に対する理解と尊敬を促すことによって、迫害と排除をなくすための国際的な働きを支援します。

見知らぬ人や外国人に対する、愛にあふれた神の配慮は聖書に明らかにされており、救世軍は個人や政府が、庇護を求める人々に対して慈悲深く人道的に接するべきであると主張します。

救世軍は、苦境にある難民や庇護希望者たちを^{えじき}餌食にしようとする、人間の密輸をする人、人身取引をする人、その他の人々の行動を非難します。救世軍は、主権国家には国境を守る責任があることを認めますが、難民と庇護希望者の世話をすることも務めであると信じます。それゆえに、国々が庇護を求める人々の差し迫った窮状を共に訴えていくことが重要なのです。

救世軍は、庇護希望者や難民ができるだけ早く定住して、社会に貢献する一員となるよう手助けをするべきであると考えます。

見解表明の背景と状況

歴史を通して、人類は自分の国を逃れ、他の国に避難所を求めるという経験をしてきました。国際的に見て、何百万人もの難民と庇護希望者がいます。ある国々では、戦争の結果として、命の危険を感じた大集団の人々が国を出ました。多くの難民たちは、命の危険、暴力、それに加えて、自分の民族性、宗教、性別、社会での地位などに関する迫害を経験してきました。この地球上で迫害された人々は、人間の密輸、人身取引など、重大な危険にさらされるのです。

避難を求める人々の要求に応えようとする国々は、大きな困難を抱えることとなります。迫害や戦争のゆえに大勢が押し寄せてきた時にはなおさらです。受け入れ側のある国では、難民に敵意を示すかもしれません。庇護希望者たちが難民として認められ、永住したいと要求する時に、それを合法とするには、複雑で重要な手続きが必要なのです。

1951年の条約に調印した国々に到着した人々は、どんな方法で到着したかにかかわらず、難民保護を求める人とされます。難民申請は、国連難民高等弁務官事務所、または、難民の地位に関する1951年の条約に調印した政府によって処理されます。庇護希望者とは、難民であるとの主張が決定されていない人々のことを指します。庇護希望者が保護申請を申し立てるには、生まれた国の外にすることが必要です。

国連の難民の地位に関する1951年の条約(と1967年の議定書)は、難民を次のように定義しています。

(続く)





社会鍋による支援 東京東海道連隊

●静岡市清水区水害被災地支援

台風15号の影響により、静清小隊近くの巴川が一部氾濫し、近隣地域に床下浸水が起り、小隊含め静岡市清水区では一時断水となりました。9月

26日(月)、東京東海道連隊本部は災害対策室と連携を図りつつ、連隊士官2人が静岡市清水区での断水被害のお見舞いに向かいました。現地で静清小隊士官熊田光子少佐と合流し、ペットボトル飲料水、簡易トイレ、食用ラップ、パン、救世軍名入りタオルを静清小隊戦友及び関係者18件にお届けしました。静清小隊は9月28日(水)には断水が解消されましたが、25日の聖別会



清水駅前銀座商店街事務所

は休まざるを得ませんでした。

10月3日(月)には、水28箱(この災害のために本営に寄贈された)と、清掃作業に必要な高圧洗浄機4台、ドリンク剤、救世軍タオルを、連隊の支援チームが静清小隊に届け、普段から小隊とつな

がりのある施設や、現地で情報を得て、なかなか救援物資が行き届かない、いまだ断水中の和田島ブロックに水など支援物資を届けることができました。

司令官
ステイブ・モリス
二〇二二年十月一日付

転任
補人事・教育部付、(兼)東京東海道連隊本部事務担当
齋藤久美子少佐
補清瀬小隊士官補佐
齋藤丈夫大尉

救世軍公報

社会福祉サンデー 11月13日

救世軍の社会福祉の働きのために祈りましょう

- ・保育園(札幌市しせいかん保育園、菊水上町保育園、桑園保育所、佐野保育園、呉保育所)
- ・児童養護施設(世光寮、機恵子寮、希望館、愛光園、豊浜学寮、児童家庭支援センター明日葉及び矢野分室)
- ・婦人保護施設(婦人寮、新生寮)
- ・高齢者施設(恵泉ホーム、ケアハウスいずみ、恵みの家、グレイス)
- ・救護、支援施設(自省館、男子社会奉仕センター、新光館)
- ・街頭生活者支援、社会鍋資金による活動、災害救援活動等

これらの働きを覚え、また法人本部である本営での業務を覚え、お祈りください。

11月30日 社会鍋の日

113年目の社会鍋が始まります。祈り、神様の助けを求めつつ備えましょう
(社会鍋実施の詳細は社会福祉部より)

災害対策室レポート

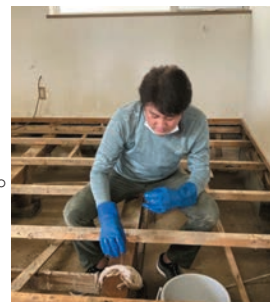
■青森県西津軽郡鰯ヶ沢町における豪雨、洪水被災家屋への支援

8月9日(火)に発生した大雨により、全国各地で大きな被害がありました。あまり報道はされませんでした。この災害によって鰯ヶ沢町では455棟の家屋が床上・床下浸水となる大きな被害がありました。災害対策室では、連携する諸団体を通して、鰯ヶ沢福音キリスト教会のエリオット牧師から支援要請を受けました。情報収集を経て、同教会の被災された信徒へのサポートを通して、地域への支援活動をおこなうこととなりました。具体的な支援内容は以下のとおりです。①人材の派遣一日頃より連携している九州キリスト災害支援センターの専門スタッフを現地に派遣し、床下の泥撤去、清掃、消毒作業をおこなう。②物資の提供一床下の清掃作業に必要な高圧洗浄機、サーキュレーター、建築資材等の提供。

この支援は8月29日(月)～9月10日(土)の計画でしたが、床下が乾くのを待ち、残りの作業、モニタリングも含めて10月中旬までのプロジェクトとして実施いたします。鰯ヶ沢町はこれまでに浸水被害に遭ったことが少ない地域です。そのような現地の状況を考慮し、この度は、床下にたまった泥が乾燥すると微細な粉塵となって健康被害をもたらす可能性についても、水害対応経験の豊かな専門スタッフが丁寧に伝え、床をはがして

泥を撤去する方法を説明しながら支援を進めました。

前述のエリオット牧師は35年前に鰯ヶ沢町に宣教師として派遣され、以来、同地で宣教と牧会を継続されています。長年のお働きが、地域の多くの人々(教会に通っている、通っていないにかかわらず)との接点を生み、支援の展開にも大きな役割を担われました。これからも現地のキリスト教会と被災された地域を覚え、お祈りとご支援をお願いいたします。



■桐生小隊

桐生小隊の離れ家屋(物置)を災害用備蓄倉庫として改修工事をおこないました。また小隊会館と隣接する駐車場の間にあるブロック塀は倒壊の危険があるため、補修工事とともに備蓄倉庫に直接出入りできる門扉を取りつけました。9月14日(水)に工事の最終確認をしました。これは、2021年2月に天に召された張田望中将が掲げてくださったビジョンでした。この備蓄倉庫への改修が実現したことを感謝いたします。

創立者 ウィリアム・ブライス 大将 ブライアン・ペドル (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モリス (救世軍本営 東京都千代田区) https://www.salvationarmy.or.jp



女性部

● 一円献金名称変更全国投票の結果
女性の働き100周年を記念して、「一円献金」の名称を検討するための全国投票の結果は以下のとおりとなり、新しい名称は「きずな献金」となりました。2023年からこの名称となります。
海外の女性や子どもたちを覚えて祈りつつ献金を献げていただくことで、きずなが深められることを願っています。全国投票への皆様のご協力をありがとうございました。
「一円献金」の名称を考える全国投票結果

からし種献金	89票
レプタ献金	36票
きずな献金	95票
一円献金	41票
白票	1票
総計	262票

● ACWC (アジア教会婦人会議) 一日研修会
11月25日(金) 13時30分より、救世軍公式YouTubeで配信されます。主題「主によって新しくされて」軍国女性部書記及び医療部長の、西村和江少佐が礼拝説教をします。どうぞご視聴ください。

2022 クリスマス・カレンダー

11月27日(日) アドベントに入る
12月4日(日) 聖書サンデー
11日(日) クリスマス・セレブレーション・コンサート2022(オンライン)
24日(土) クリスマス・イブ
25日(日) クリスマス

第3回 X'mas 手仕事マルシェ

2022.12.1 木

場所: 救世軍本営前 (雨天決行)
神田神保町2-17
時間: 10:00-15:00
売上はウクライナ支援に寄付します

主催: 救世軍本営

Gospel Autumn Concert

ゴスペル・オータム・コンサート

堀井ローレン

入場無料 事前登録制

2022年 11月19日(土)
開演: 午後5時30分 (開場: 午後5時)
日本教育会館一ツ橋ホール

第21代救世軍大将 ブライアン・ペドル

救世軍最高指導者(万国総督)、カナダ出身。1977年に救世軍士官(伝道者)となり、母国で奉仕後、ニュージーランド・フィジー及びトンガ軍国(当時)、英国及びアイルランド軍国で奉仕。カナダ・ハイムユダ軍国司令官、万国本営(国際本部)米国・カリブ地域担当万国書記官、参謀総長を経て、2018年8月より大将に就任。現在に至る。

交通機関のご案内
東京メトロ半蔵門線・都営新宿線・都営三田線
神保町駅(出口A1) 徒歩5分
※施設には駐輪場・駐車場がありません。

コンサート参加は事前登録制です(新型コロナウイルス感染対策のため)
右QRコードよりお申し込みください。締切11月13日(日)。
なおQRコード使用が難しい場合はお電話でお申し込みいただけます。080-7046-1583(平日10時~17時、担当:花崎)他、注意事項はチラシをご確認ください。

(取扱支部)